

神道政治連盟の国会議員懇談会で性的マイノリティへの差別や偏見を含む冊子が配布された件に関する意思表示

私たちは、先月 6 月 13 日に多数の自民党議員が参加して行われた神道政治連盟の国会議員懇談会の席上で、性的マイノリティに対する偏見や差別と捉えられる内容の記された冊子が配られた件を受け、ここに当委員会としての意思を表明します。

キリスト新聞の記事によれば、冊子には LGBT について以下の文章が掲載されていたと記されています。

“「同性愛は心の中の問題であり、先天的なものではなく後天的な精神の障害、または依存症」「体の性は男と女の二つしかなく、性的指向、性同一性・性自認、性表現の性差は全て精神領域の範疇」「LGBT の自殺率が高いのは社会的な差別が原因ではない」”(The Kirisuto Shinbun Kirishin 2022 年 7 月 6 日)

上記の記述は、持論を正当化しながら性的マイノリティの存在を否定し、社会で構造化されてきた性的マイノリティへの偏見と差別の事実をまるでなかったかのように歪曲して伝えるものであり、深い憤りを覚えます。この事態を受けて性的マイノリティ当事者有志の呼びかけにより、自民党本部前で約 500 人による抗議が行われました。幾度となく繰り返されて今も止むことのない偏見と差別に向けて、絶望と憤りと悲痛に満ちたひとりひとりの叫び声が涙と共に響き渡りました。これが、今も性的マイノリティが直面し続けている社会の現実です。長い歴史を通してなされてきた権力や権威による価値観の絶対化や刷り込みが社会の思い込みや無理解を助長させ、その閉ざされたはざままで性的マイノリティは、個々のセクシュアリティを深く傷つけられながら存在を抑圧され、排除され続けているのです。これらの事実を歪めて自らの主張を正当化し、さらなる偏見と差別を加えて性的マイノリティの存在を否定し苦しめる内容の冊子が書かれたこと、しかもそれが、国民ひとりひとりのための国政を担う国会議員の懇談会で共有されたことに対して、私たちは強く反対します。このようなことは、決してあってはならないことです。

ひとりひとりの性のあり様は、人格や生き方と深く結びついた多様なものです。それは侵害されてはならない人間の尊厳です。だからこそ性自認や性指向とは、決して奪うことのできない個々人の生きる権利なのです。ひとりひとりが、多様でかけがえのない性であるセクシュアリティを喜び、互いに大切にしながら生きていく世界を心から祈ります。

2022 年 7 月 26 日

日本バプテスト連盟 性差別問題特別委員会